

令和5年度 利府町標準学力調査の結果分析と改善案（4学年）

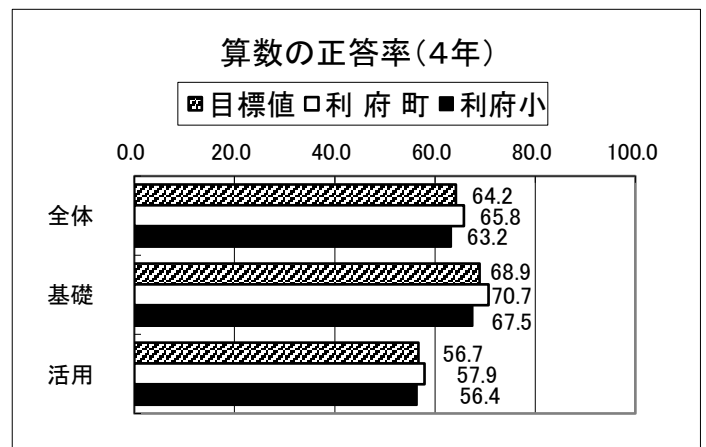
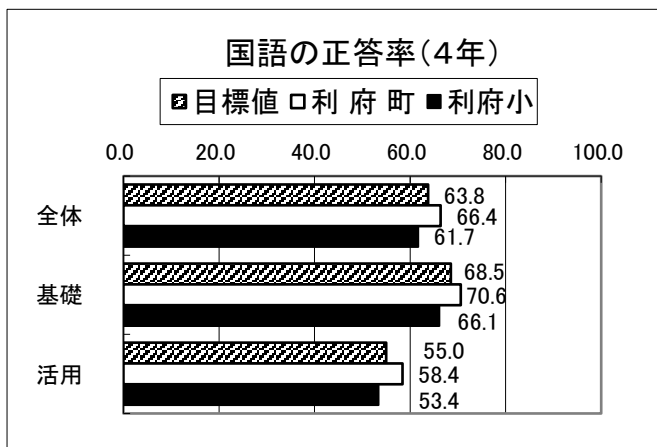
春寒の候、保護者の皆様方にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただいていることに、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年12月に行われた利府町標準学力調査の結果についてお知らせいたします。また、児童には一人一人に検査の結果と学習のポイントが書かれた個人カードを配付いたしました。

つきましては、ご家庭でも学習への取組方等についてお子さんと話し合い、励ましの言葉を掛けていただければと思います。

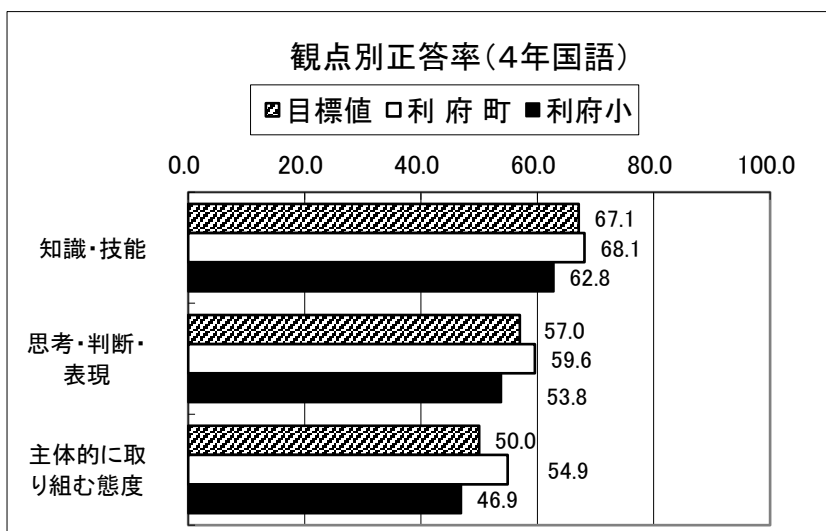
4学年全体の結果から

目標値とは、データに基づいてこの数値まで到達してほしいラインを表したものです。実際の正答率とは異なりますが、およそ全国平均の数値と近いもので、結果を比較する目安となる数値です。



- ・ 国語については、全体で2.1ポイント目標値を下回っています。基礎で2.4ポイント、活用では1.6ポイント下回っていることから、基礎的な学習内容が十分に身に付いていないことが分かりました。
- ・ 算数については、全体で1.0ポイント目標値を下回っています。基礎では1.4ポイント、活用では0.3ポイント目標値を下回っているものの、目標値に近い値であることから、学習内容はほぼ身に付いていると言えます。

【国語】◎よくできていた点 ●課題とその改善案

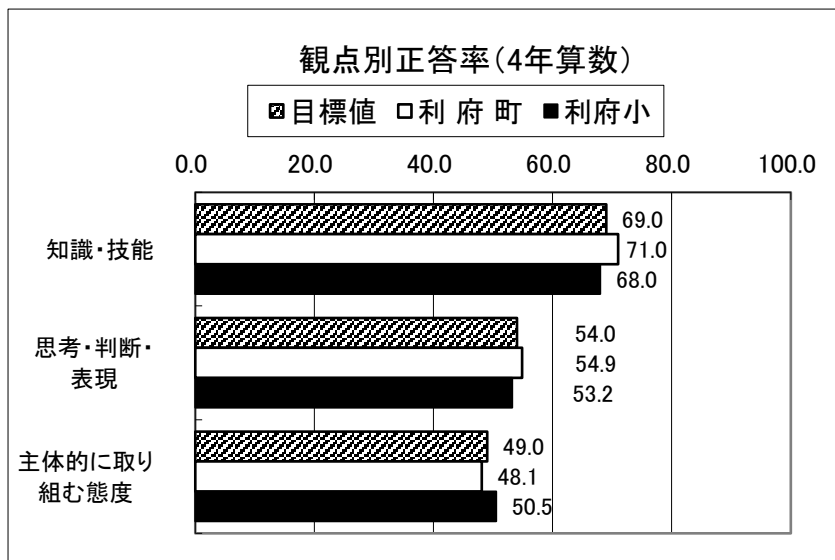


◎「言葉の学習」の問題において、主語と述語の関係を正しく理解する問題や、ことわざの意味を知り正しく使う問題の正答率が高くなっていました。

◎「物語の内容を読み取る」問題では、登場人物の行動や気持ちを捉える問題や、文章を読んで感じたことや考えたことを共有する問題の正答率が高くなっていました。

●「説明文の内容を読み取る」問題では、段落相互の関係を捉え、中心となる語や文を見つけて要約する問題の正答率が低くなっていました。学習の中で、段落構成を捉えさせたり、段落ごとの要点を考えさせたりするような活動を行っていきます。

【算 数】◎よくできていた点 ●課題とその改善案



◎ ( ) のある式を「計算のきまり」を使って正しく計算する問題の正答率が高くなっていました。

◎「垂直・平行と四角形」の問題は、平行な直線や四角形の対角線の性質を理解できており、図形分野の基礎的問題の正答率が高くなっていました。また、ひし形の作図の問題も正答率が高くなっていました。

●わり算や小数の計算の問題の正答率が低くなっていました。授業や宿題などで復習することで解き方を定着させていきます。

●「簡単な場合についての割合」の問題では、基準量を求める除法の文章問題の正答率が低くなっていました。授業の中で、文章問題を読んで数直線や簡単な図に書き表す指導を継続して行っていきます。

## 個人票『あなたの結果』の見方

### ① 教科正答率 (%)

全て正解の場合は100%になります。「あなた」の欄のお子さんの数値と目標(到達してほしい数値)を比較しておおよその目安としてください。

右側の児童のみなさんへの文章をお子さんと一緒に読んでみてください。

### ② 内容別の正答率

国語と算数それぞれの問題の内容別にお子さんの正答率を表しています。評価は目標値との比較により、3段階で表されています。特に▲は、内容が十分に身に付いていないことを表します。

表の下にはお子さんへのアドバイスが記述されています。自主学習に取り組む際の参考にしてください。

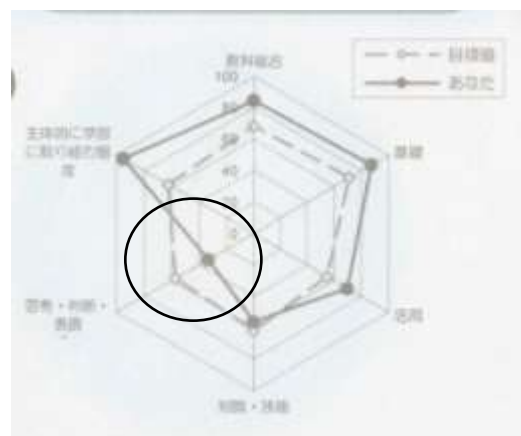
(例) 小学校4年 算数

問題の内容	正答率 (%)		評価
	あなた	目標値	
わり算	80.0	82.5	○
小数	87.5	77.9	◎
角の大きさ	65.4	81.4	▲
総合	78.5	79.5	○

▲の評価である「角の大きさ」の学習が十分に身に付いていないことが分かります。

※詳しくは、個人票の裏面をご覧ください。

### ③ 領域別のグラフ



『目標値』より内側の値(○の中の部分)は目標に届かなかったことを表します。